



やなぎっ子

さいたま市立片柳小学校

TEL 048-683-3174

FAX 048-683-8971

<http://katayanagi-e.saitama-city.ed.jp/>

「仏様の指（やさしさ）」と「雨ニモ アテズ（きびしさ）」

校長 五十嵐 公明

中学校や高校の元教師で、独創的な国語教育の研究家の「大村 はま」（1906～2005）さんの逸話の中に「仏様の指」という話があります。

「一人の男が荷物をいっぱい積んだ荷車でぬかるみに入り、出られなくなった時、仏様がちょっと指でお触れになった後、男は車をまた引いていった。」という内容であります。

大村はまさんは、「こういうのが本当の教師なんだ。男は御仏の指の力にあずかったことを永遠に知らない。自分が努力して、ついに引き得たという自信と喜びとでその車を引いて行ったのだ。」とお話しされたそうです。まさに教育の根幹とも思える考え方であります。

私たち教員は、お互いの授業を見合う時、その考え方を大切にします。教員の力量は教え込むのではなく、子どもたちが自分で発見できる場、自分で解決する時間をいかに創り出せるかです。そして、それが子どもたちの自信や意欲につながればと考えます。しかし、健やかな成長のためには他にも必要なことがあります。

そこで、次に紹介するのは、宮沢賢治のふるさと盛岡で小児科医を勤める医師が、小児科学会で紹介した、「雨ニモマケズ・・・」のパロディー（作者不詳）です。

雨ニモ アテズ

作者不詳

雨ニモ アテズ、風ニモ アテズ、雪ニモ夏ノ暑サニモ アテズ
ブヨブヨノ体ニ、タクサン 着コミ 意欲モ ナク、体力モ ナク
イツモ ブツブツ、不満ヲ イツテイル 毎日、塾ニ追ワレ、テレビニ 吸イツイテ 遊バズ
朝カラ、アクビヲシ、集会ガ アレバ、貧血ヲ 起コシ
アラユルコトヲ、自分ノ タメダケ考エテ カエリミズ
作業ハ グズグズ、注意散漫 スグニアキ、ソシテ スグ忘レ
リップナ家ノ、自分ノ部屋ニ 閉ジコモッテ イテ
東ニ 病人 アレバ、医者ガ 悪イトイイ 西ニ 疲レタ母 アレバ、養老院ニ 行ケトイイ
南ニ 死ニソウナ人 アレバ、寿命ダトイイ 北ニ 喧嘩ヤ 訴訟ガ アレバ、ナガメテ 関ワラズ
日照リノ トキハ、冷房ヲツケ、ミンナニ 勉強勉強ト イワレ
叱ラレモ セズ、恐いモノモ 知ラズ コンナ 現代ッ子ニ 誰ガ シタ

保護者と教職員以外に子どもを温かく見守り、叱ってくれるのは、チャレンジ・スクールや学童の先生、防犯ボランティア、育成会や自治会等、地域の皆さんです。社会に役立つやなぎっ子を育てるという視点を共有し、今年度も、皆さんの力をお借りしたいと考えています。